

# 地域ネットワークニュース

～平成26年7月の勉強会のお知らせ & 平成26年6月の勉強会報告～

第198回 地域ネットワーク勉強会

7月29日(火)

午後7時～午後9時

神栖市保健・福祉会館内

参加費無料

## 「ひきこもりを考える～家族や支援者の関わり方～」

講師：茨城県潮来保健所 保健指導課 野口悦子氏

私たちは様々なストレスの中で生活しています。そのストレスに対し、自分でも気付かないうちに頑張り、耐え続けた結果これ以上疲れないように閉じこもり、自分を守ろうとする方もいます。ご家族には育児や教育を振り返って自責の念にかられる方、「いつまで続くのだろうか・・・」と焦り不安になる方、どこに相談していいのかわからない方も多いかと思えます。

茨城県内の保健所では、ひきこもりの相談支援や家族教室を行っており、平成23年度からは「ひきこもり者の居場所づくり」を実施するなど、保健所による相談支援体制の強化を図っています。

前回の勉強会では茨城県精神保健福祉センターの役割やひきこもりの現状などを、センターのスタッフにお話し頂きましたが、今回の勉強会では、ひきこもりについて地域の身近な相談窓口である潮来保健所の「ひきこもり相談支援」の対応を中心にお話ししていただきます。当事者やその家族、各支援機関の職員方など、ひきこもりについて関心のある方々の参加をお待ちしています。



お問い合わせ：神栖市社会福祉協議会 地域福祉推進センター 担当:飯田 電話 0299-93-0294



第197回 地域ネットワーク勉強会報告

平成26年6月24日開催

『ひきこもりってなんだろう?～概要と現状～』

<参加者17名>

講師：茨城県精神保健福祉センター

相談援助課 主任 川崎智佳氏（心理判定員）

平成22年の内閣府調査によると、「ふだんは家にいるが自分の趣味に関する用事のときだけ外出する」「ふだんは家にいるが近所のコンビニなどには出かける」「自室からは出るが家からは出ない」「自室からはほとんど出ない」というひきこもりの状況にある人が69万6千人もいるそうです。この数値を茨城県に換算すると約1万6千人となります。

ひきこもりは表に出づら問題なので周囲から認識されにくく、問題としては深刻であるにもかかわらず、緊急的に命に関わる問題ではないため、先延ばしにされてしまうという現状があります。その結果、支援の手が伸ばしにくくなり、どうにもならなくなった時ようやく支援が始まるという形になってしまいます。

ひきこもっている本人は、恐れ、不安、緊張、焦りなどを感じており、ひきこもったことに対し「叱責されるのではないか」「罰を受けるのではないか」「馬鹿にされるのではないか」という心境になっているため、まずは不安の軽減をしながらも、最終的な目標に向かってゆるやかに進むことが必要になります。また、つい忘れがちになってしまいますが支援する家族の方ご自身のケアも大切にしてほしいと参加者に伝えて頂きました。